

牽引役に変化がみられる米国の企業業績 - 金融や情報技術に加え、エネルギーや素材セクターに勢い -

当レポートの主な内容

米国主要企業の2017年1-3月期の決算発表が、一部始まりました。トムソン・ロイターの調査ではS&P500指数採用企業全体で前年同期比10.0%（4月12日時点）の増益となることが見込まれています。

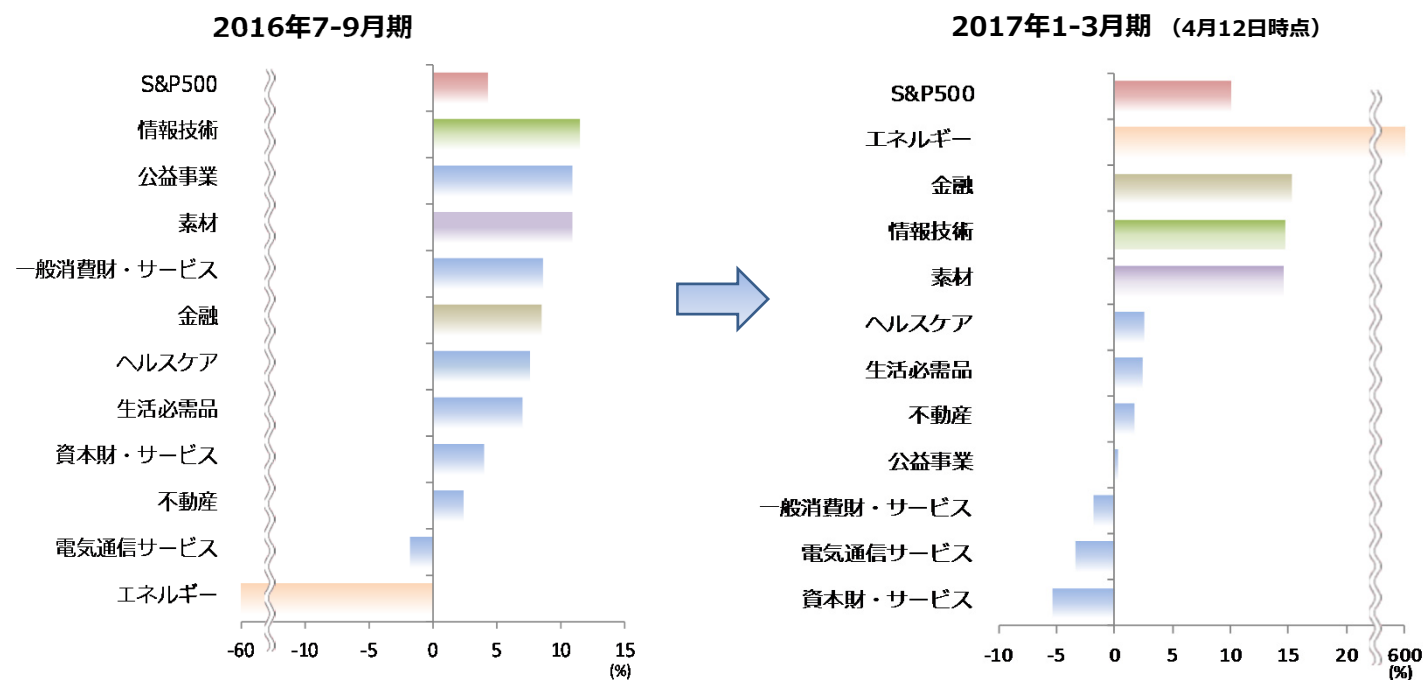
ただ、内訳をみると、減益から増益に転換した2016年7-9月期と比べて牽引役に変化がみられます。足元の株式市場は、地政学リスクの高まりなどを受けて上値の重い動きとなっていますが、年後半にかけて企業業績の拡大に沿った動きになることが期待されます。

業績の牽引役に変化がみられる2017年1-3月期決算

米国の企業業績をセクター別にみると、業績の牽引役が変化してきていることが窺われます。4月12日時点の2017年1-3月期業績は、原油価格など資源価格の上昇により、エネルギーが前年同期比+597%と大幅な増益となっています。また、同様の要因により、素材が+14.6%と2桁増益が見込まれています。さらに、金利上昇に伴う収益改善などを受けて金融が+15.3%、世界的な景気の持ち直しに加え、ドル高の一服も業績改善に寄与したとみられる情報技術が+14.7%と、それぞれ高い増益率となっています。

一方、ヘルスケア、生活必需品、不動産は、+1～3%程度と、増益率は緩やかなものにとどまっています。また、資本財・サービスは▲5.4%、電気通信サービスは▲3.4%と減益になりました。さらに、一般消費財・サービスが▲1.8%と、2016年7-9月期の増益から一転減益となるなど、セクターごとに変化がみられる点が注目されます（図表1）。

（図表1）S&P500指数採用企業のセクター別増減益率の比較（前年同期比）



（出所） Thomson Reutersのデータより岡三アセットマネジメント作成

＜本資料に関してご留意いただきたい事項＞

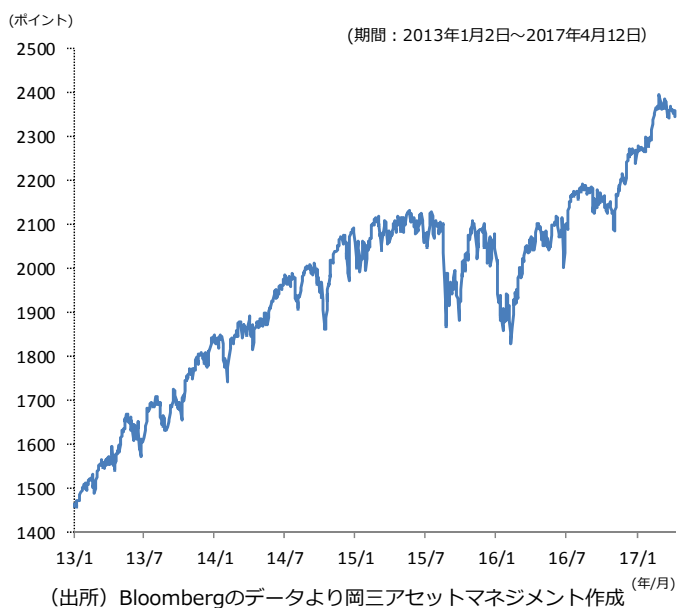
■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

業績相場への移行が期待される米国株式市場

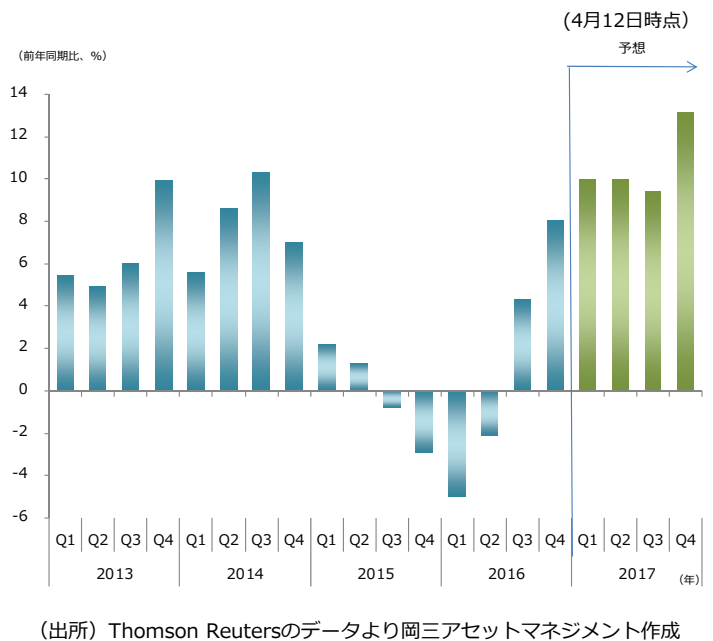
S&P500指数が3月1日に史上最高値を更新した米国株式市場は、その後、トランプ政権の政策実現性への疑念や、中東・北朝鮮における地政学リスクの高まりなどの不透明要因を背景に、上値の重い動きとなっています(図表2)。また、利益と株価との関係をみた株価収益率(PER)は、過去と比較してやや割高な水準で推移しており、バリュエーションが拡大することによる株価上昇は、期待しにくい状況にあると思われます。

ただ、S&P500指数採用企業全体の2017年の業績予想を見ると、2016年より改善ペースが強まり、全四半期を通して10%前後の増益率となる見込みです(図表3)。また、グローバル景気は拡大基調にあるとみられることや、トランプ政権の財政政策が2017年10-12月期に発動されれば、2017年以降の企業業績にも上振れの余地があると考えられることなどから、年後半にかけて、地政学リスクなどの不透明な要因を消化しながら、企業業績の拡大に沿った動きになることが期待されます。

(図表2) S&P500指数の推移



(図表3) S&P500指数採用企業全体の増減益率



以上 (作成：投資情報部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

皆様の投資判断に関する留意事項

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用

購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.78%（税抜3.5%）

- お客様が換金時に直接的に負担する費用

信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内

- お客様が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担

：純資産総額×実質上限年率2.052%（税抜1.90%）

※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。

その他費用・手数料

監査費用：純資産総額×上限年率0.01296%（税抜0.012%）

※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。

※監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。

- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商 号：岡三アセットマネジメント株式会社

事 業 内 容：投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業

登 録：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号

加 入 協 会：一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用するすべての公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>

カスタマーサービス部 フリーダイヤル **0120-048-214**（9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く）